京都帝國大學經濟學部內 東亞經濟研究所

年四回（二月、五月、十二月）發行

東亞經濟論叢

第貳卷 第壹號

昭和十七年三月

特輯 南方經濟號

南方經濟の基本問題……經濟學博士 谷口吉彦
最近佛領印度支那幣制に於ける二つの改革……經濟學博士 松岡孝兒
比島資源價値の進展……經濟學士 淺香末起
ビルマの資源と産業と貿易……大場忠
インドの農産資源……文學士 岡崎三郎
濠洲經濟事情……宮崎亮
農業投資植民地としての蘭領インド……經濟學士 北博
印度支那におけるフランスの經濟政策……經濟學士 河野健二
日本經濟と南洋貿易……經濟學士 松井清
南方纖維原料の生産について……經濟學士 岡部利良
南方ゴム資源と其の對策……經濟學博士 谷口吉彦
南方資源論……經濟學博士 蜷川虎三
附錄 南方文獻目錄

發賣 有斐閣書肆

南方資源論

——太平洋資源論の一課題——

蜷川虎三

一

太平洋および太平洋水域の資源および資源政策を論ずることが太平洋資源論の課題であり、東亞資源論はその一課題にほかならない。而して、ここに問題にする南方資源論はまた東亞資源論の一課題にほかならないが、特に太平洋資源論の一課題と斷る所以は、右のごとき意味において問題の地位と關係とを明らかにせんとするばかりでなく、南方資源政策が「大洋政策」の確立と推進とを前提としてのみ達成し得られるといふ多年の私見を強く謳はんとする理由にもよるものである。

東亞共榮圏の確保は高度國防國家體制の確立を基本目標とするわが國策の遂行上の一大重要條件であり、實際政策としては國策の目標と國際情勢の推移とに對應して着々遂行されつつあるが、學問的に一個の政策論の課題としてこれを見るならば、東亞共榮圏自體の意義・性質・問題等が必ずしも闡明にせられず、政策論が實際政策の後から追ひかけてゐる觀がないではない。ことに大東亞戰爭の開始以來、皇軍のめざましい進擊と赫々たる戰

果とによつて、いはゆる南方の問題は國民の重大關心事となり大東亞建設に勇躍せしむるに至つたことは、この大地盤工作に挺身した皇軍の勇武に對しまことに感謝感激に堪へぬところであるが、それだけに大東亞建設における南方建設の問題は重大であるといはなければならぬ。今日盛にいはゆる南方が問題にされ論じられる所以がここに在ることは明らかだとしても、これまた往々にして事態を後から追ひかけてゐるやうな觀があり、南方それ自體ばかりでなく、南方問題ならびにその重要性について正しくこれを捉へ、實際政策の趨くところを示すがごとき政策論的な研究にまでは進んでをらないやうに思はれる。したがつて、徒らに南方は問題にされてゐるが、南方問題は明らかにされてゐない憾みがある。少くとも學問的にはその感が深いやうである。ことに南方の諸國諸地方が從來原料供給地であり、而も世界的に特有原料の供給地であつたために、今日南方が問題にされるについても專ら資源に著目されてゐることは當然であるが、資源が存在することとこれが開發利用され得ることとは別個の問題で、徒らに南方資源の豐富を謳つたところで、それが直ちに大東亞の建設に役立ち得るものと速斷することは不可能である。寧ろ問題は、いはゆる南方の資源をしていかにして大東亞建設におけるその役割を演ぜしむるかに在る。したがつて、その限りにおいては、もはや問題は單に南方のみに限られた問題ではなく、東亞共榮圏において見らるべき性質のものである。ゆゑに若し、東亞共榮圏自體が十分に闡明にせられずして南方問題が扱はれ、また南方政策が論ぜられるならば、それは一種の通俗論か架空の論議にとどまるものであらう。この意味において、私は先づ南方資源論の地位を示したわけであるが、既に私の發表した論稿がその結論として示すごとく、南方資源の問題は、日滿支一體經濟の培養領域としての南方地域における資源としてその意義役割を

もつものである。[1)]

また私は、わが國の政策論の一視角として、「大洋政策」からの角度を從來主張し來つたものである。周知のごとく、從來わが國策の一方向として大陸政策が强調されて來たことはここに述べるまでもない。而してまたその重大性についても論議の餘地のないところであるが、私見は、眞の大陸政策の遂行は同時に大洋政策を伴ふものでなければならぬといふ事に在る。その理由は第一に日本の地理的地位であり、第二にかかる地理的地位に在る日本を圍む國際關係と國際情勢であり、第三に海洋國日本における國土への反省と海洋的關心の高揚である。

日本が四面環海の島帝國であることは國民の口に常に謳はれてゐるところであるが、然らばそれが國民の胸にどこまで自覺され、國民生活の上にまた國民經濟の上に反映され徹底されてゐるかといふ點になると甚だ疑問の餘地があらうと思はれる。もちろん意識すると否とに拘らず國民生活や國民經濟は國土の地理的地位や自然的環境に支配され制約されてゐることは事實であるが、更に進んで、これを活用しまた克服して行くところに經濟の發展があり生活の向上があるといはなければならぬ。したがつて、この意味からすれば、わが日本としては當然に四周の海洋の克服にまたこれが活用に乘出すべきであり、國策の基本方向の一端がここになければならない筈であつた。しかし、世界に誇る無敵海軍の建設とその偉力の發揮を除いては、一般國民の海洋に對する關心は必ずしも十分に深いものであるといふことは出來なかつた。現にこのことは國民の海洋思想の程度に現れてゐるばかりでなく、海洋の學術的調査研究においても、また海洋の產業的開發においても見られるところで、海運にせよ、水產業にせよ、海洋を舞臺とする經濟的發展の程度は必ずしも海洋國にふさはしいものであるといふことは

1) 拙稿，東亞共榮圈に於ける資源確保の問題（南方資源論の序說として），國際經濟研究第二卷第四號。
同，東亞資源論，東亞政治と東亞經濟昭和16年7月。

出來ないであらう。もちろん、わが海運は世界の海運に伍して急速な發展を遂げて來た。また水産業も太平洋を北に南にわが勇敢なる漁業者の進出によつてその漁場を開拓して來た。したがつて、海洋國民として十分な素質があり實力のあることは決して示されなかつた譯ではないが、その發展の程度から見れば必ずしもその實力が發揮されたといふことは出來ない。むしろ或る場合には、國民の關心はこれに對して薄く、阻害しないまでも冷眼視して來たやうなことも少くはなかつた。かうした事情や原因がどこに在つたかは暫く問はぬにしても、これでは本當に國土のもつ力を發揮せしむることは出來ないであらう。現に皇軍の赫々たる戰果と躍進とに照應するだけの海の産業の役割が十分にはたされてゐるか否かを見るならば思半に過ぐるものがあるであらう。これは決して海運や水産業それ自體の問題ではなく、大洋政策を輕じてこれに十分な推進力を與へなかつた結果によるものにほかならない。ここに具體的な事實と問題とを擧げることを控へるが、われわれは十分に反省し檢討し産業政策がまた一般に經濟政策が國土の本質の把握と國民性の伸暢の上に考へられねばならぬことを特に記して置きたいと思ふ。

さらにまた、太平洋を圍み或は太平洋における諸國並に諸地方と日本との政治的および經濟的な國際關係とこれによつて釀し出された國際情勢の推移を見るとき、これに對處する確乎たる國策を以て國家を護り國家の發展を企圖すべきことは當然のこととといはねばならぬ。大洋政策はまさにかかる國策を內容とし、かかる國策の方向を謳つたものにほかならない。この意味において、いはゆる大陸政策は當然に大洋政策によつて裏打さるべき性質のものであり、また大洋政策は大陸政策を伴つてのみ國策として全き姿を得るといふことが出來るであらう。[1)]

1)　拙著，水産日本の話（昭和13年）p. 139。

しかし、既に述べたやうに、從來の政策および政策論について見れば、當然考へらるべき大洋政策が假令看過されてゐなかつたにしても、一般的國民的關心からすれば輕視されてゐたことは否定し得ないところである。南方資源政策の前提として特に大洋政策を謳ふ所以はここに在る。而してまた、この前提によつてのみ、南方資源政策の方向を見出し得るであらうし、またその問題を解決し得るといふ私見によるものである。

かかる見地から、私は、南方資源論の問題を東亞資源論の問題として捉へ、また東亞資源論の問題を太平洋資源論の問題として捉へる。而して太平洋資源論によつて扱はるべき領域は、太平洋およびその水域であるが、その限りにおいて、アジア大陸、米大陸並に太平洋に所在する島嶼に亘るものである。しかし、太平洋資源論の問題にする領域がかかる廣大な部面に亘つても、資源論が資源政策を中心的な課題とする限りにおいて、單に平面的に資源の所在を記述するものではないから、ここに一定の立場と問題の取扱ひ方についての方向が定められ、この立場と方向とにおいて論ぜられるものでなければならぬ。大洋政策は、先に述べたる意味において、まさにこの立場と方向とを與へる政策の基調であり政策論の前提でなければならぬ。而してまた、東亞資源論は太平洋資源論の一課題にほかならないが、東亞資源論において扱はるべき「東亞」の領域は、右の私見の立場から、日滿支一體經濟の培養領域と規定する。日滿支一體經濟並にその培養領域については、既に屢々論じたところであるからここには略し、[1] ここにはただその扱ふ範圍を地域的に區別して示すにとどめる。次のごとくである。

第一區　北樺太、カムチヤツカ、沿海州、アリユーシヤン列島、アラスカ

第二區　佛領印度支那、泰國、ビルマ、馬來、フイリツピン、從來蘭印と呼ばれた地方を中心とする諸島

1) 前掲二論文および「廣域經濟論」科學主義工業昭和17年2月。

第三區　濠洲を中心とするいはゆる大洋洲

第四區　印度

もちろん、かかる區別は理論的根據や實際政策の意義を深く追及した結果ではなく、ただ問題を取扱ふ便宜によるもので、特別な意味をもつものではない。

若し、一應かかる區別に立つならば、私がここに南方資源論として扱ふ「南方」の領域は、右の第二區および第三區をその範圍とするものである。もちろん、これもまた、この範圍に限つてこれを南方と呼ぶことが正しいかどうか、また「南方」の用語自體が適當であるかどうかについては私の爭ふところではない。ただ問題を論じこれを扱ふ便宜上、右の範圍を一應總括的に南方と呼ぶに過ぎない。而して本論の問題とするところは、かかる意味における南方領域について、その資源の大東亞建設における役割とこれを達成實現せしむるに必要な政策に關する問題を明らかにすることに在る。各個資源に關する詳細なる研究は本文の目的とするところではない。

二

南方および南方問題の重要性は、南方が日滿支一體經濟の培養領域における一重要地帶を形成してゐる點にある。而して今日、國民がこれに重大な關心を拂ふのは、もちろん大東亞戰爭における現在の作戰の中心地帶であり、皇軍が赫々たる戰果を擧げて進擊しつつある方面であることによるのであるが、同時にまたこの領域をして日滿支一體經濟の培養領域たる役割を十分に實現せしめ、いはゆる東亞共榮圈の一地域として大東亞建設に參加協力せしむるといふ建設的企圖に燃ゆるがゆゑである。もちろん世間の一部には、徒らに南方固有の資源或は豐

富な資源について強く謳ひ、これによつて東亞共榮圏における原料供給に不安なしといふ感じを與へ、而もまたいまにも石油や護謨或は砂糖などが潤澤に供給されるがごとく考へる者もあるやうだが、これは單なる俗論であり一個の妄想に過ぎない。先にも述べたやうに、資源が存在するといふことは、必ずしも資源がそれだけの現有能力をもつことを意味するものではなく、したがつて原料供給能力がどれだけあるかは全く別個の問題である。さらに現有能力が示されたところで、それがどこまで發揮されるかはまた別個の問題である。したがつて、資源が存在するといふことばかりでなく、その現有能力が幾何のものであり、また潜在的能力が如何なる程度のものであるかが調査測定されねばならぬ。海があるから魚が捕れ、土地があるから農作物が得られるといふやうに簡單に行くものではない。而も戰場と化した資源地帶が從來示した現有能力をいかなる程度まで保持してゐるかが問題である。さらに保持されてゐる程度の現有能力にしても、これが發揮され實現されるについて多くの阻害因の働いてゐることも考へなければならない。この阻害因の種類と程度により現有能力の實現の程度が定まるであらうが、當面の問題としては先づこれを除却することが緊要である。自然的に、政治的に、經濟的に、これらの阻害因の働く部面を調査し、これが除却の方策を講ずることが資源の探險開發よりも急を要する問題であるが、戰時下において、而も戰場地域においては普通の場合と違つて多くの困難を伴ふことは當然である。したがつて資源があるからといつて、直ちに原料供給が可能となるものではない。

この意味において、南方資源についても、資源の調査並にこれが開發利用の方策について確乎たる方針を樹立し、これを科學的に而も強力に遂行する必要がある。從來「開發」といふことは大陸政策において強調され來つ

たところで、いはゆる計畫は示されても開發は一向に實績を示してゐないといふ憾みが必ずしもない譯ではなかつた。もちろん、これについては種々の原因が擧げられ理由が說明されてゐるが、問題は原因の探究や理由の說明に在るのではなく、いはゆる開發の目的を達成することに在る。この大東亞戰爭下においては資源の開發利用もまた大なる戰ひである。戰ひにおいて出來なかつたの、不可能であつたのといふのでは負けてゐることである。敗戰の理由を述べて恥ぢないのは米英以外にはない筈である。資源政策の擔當者もとれが遂行者も十分にその責任をとり、その局に當る必要がある。

殊に一地方の資源の開發利用については、これが根本目標を確立し、この根本目標の下において科學的に合理的な計畫を立てこれを强力に遂行しなければならぬ。いふまでもなく、敢て資源政策のみならず一切の政策がその根本において東亞新秩序の確立を目指す大東亞の建設をその目標とすることは明らかである。この點については論議の餘地がない。しかし、これによつて窮極の目標は明瞭であるにしても、大東亞の建設が果していかなる過程を辿りまたいかなる段階を經るものであるか、その見通しはこれだけでは明らかでない。而も一應のこの見通しと現實事態の認識を缺いては計畫の樹立は不可能である。ここに政策擔當者の問題もあれば、また政策論を問題にする者の課題もある。私はこの點について、支那事變に續くものは東亞新秩序確立戰であり、東亞新秩序確立戰こそは世界戰爭的な規模において戰はるべき戰爭なるがゆゑに、これが準備の體制としての東亞防衛體制の確立完成の急務なる所以を明らかにして來た。[1] 今次の大東亞戰爭は私のいふ所の東亞新秩序確立戰であり、支那事變を含んでこの呼稱の與へられたことは極めて妥當である。而して、私は、かかる見通しの下に、東亞防衛

1）拙稿，日本經濟再建論，東亞解放昭和14年10月。

體制の確立完成のためには、

一、日本戰時經濟體制の完成

二、日滿支一體經濟の確立强化

三、日滿支一體經濟の培養領域の確保

の三條件を根本において滿足しなければならぬことを明らかにして來たが、右の中の第三點がいかにして確保さるべきかについては及ぶところがなかつたのである。私の示した點は、ただ日米開戰の發火點の一つが南太平洋に在ることを述べたにとどまる。[1)]

日滿支一體經濟の培養領域の確保の要請は、要するに、(一)日滿支一體經濟の安全の確保と、(二)日滿支一體經濟の保持發展に必要なる領域の確保とに在る。日滿支一體經濟の安全の確保は日滿支の國防的安全性の保持のために必要とされる廣域の要請であり、また、日滿支一體經濟の保持發展のために必要とする領域はその中に資源と市場を十分に含み可及的に自給自足の可能なる廣域の要請にほかならぬ。然るに日滿支の四周は殆ど全部が敵性國家とその前進基地たる地方であり、日滿支一體經濟の培養領域どころか、敵は頑强にこれを固守し、これを攻擊の基地として日本への敵對行動を烈しくしまた露骨にして來た。大東亞戰爭はかくして終に開始されたのである。日本が日滿支一體經濟の培養領域の確保を必至のものとしたことは、東亞新秩序確立の使命から必然のことではあるが、それは何も武力に訴へねばならぬことを意味するものではない。寧ろその使命に鑑み、日滿支の四周の諸國諸地方とともに協力し、平和的な經濟的政治的結合による東亞共榮圈の確立こそ望ましいもので

1) 拙稿，日米開戰と日本經濟の新編成，東亞解放昭和16年3月。

あつた。ところが米英はじめこれに追隨盲從する諸勢力は協力どころか反擊の態勢を益々强化して來たのである。

ゆゑに、この意味において、大東亞戰爭は米英並にこれに追隨盲從する諸勢力の徹底的な擊滅を窮極の目的とするものであるが、この戰爭の第一段階において企圖せらるべきことは、日滿支一體經濟の培養領域內における敵性勢力の驅逐擊滅と培養領域各地方の大東亞建設における各個の役割の遂行でなければならぬ。卽ち次の段階において來るべき米英の本源的な勢力との決戰を控へて、東亞防衛體制の完成を遂行することこそ大東亞戰爭の今日の段階でなければならぬ。皇軍はこの點について遺憾なくその威力を發揮し、短期間の中に敵勢力を擊碎擊滅し、大東亞建設の地盤を確立しつつあるが、これに伴つて東亞防衛體制が必要とする前記の諸條件を滿足するだけの經濟建設が十分に進められなければならぬ。

したがつて、日滿支一體經濟の培養領域については、大東亞戰爭の今日の段階におけるその役割を果さしむることが最も重要にして緊急の問題である。もとより東亞新秩序確立の國家の使命が示すごとく、東亞諸民族を歐米帝國主義の侵略と搾取から解放し、東亞諸民族の協力の下に東亞の平和と發展とを企圖し、これを達成實現することが日本の指導の根本目標であり、いかなる事態の下においてもこの根本目標を忘れるものではないが、そこに至るためには、先づ大東亞戰爭を戰ひ拔き米英を徹底的に擊滅しなければならない。而して、それには米英の本源的な勢力との決戰を經なければならないし、この決戰は文字通り國の總力を擧げての長期戰であることは何人も見易いところである。この意味において、日本が指導的地位に立ち、日滿支一體經濟を中核體とし、日滿

支一體經濟の培養領域を含んで東亞の總力を結集して米英擊滅の決戰の體制を完成するとともに、大東亞建設の地盤としなければならぬ。したがつて、日滿支一體經濟の培養領域たる地方は、その地位と能力とにおいてその大東亞建設における役割を果すことが緊急の任務であり、これに伴ふ困難苦痛は當然に忍ばなければならぬ。而して、これを指導してゆく日本としても、この明白なる事理の下に確乎たる政策を斷然强行してゆくことが必要である。政策は高き理想をもたなければならないが、政策の遂行はどこまでも現實的なものでなければならぬ。

この意味において、南方には南方の今日の役割をはたさしむることが必要である。日滿支一體經濟の培養領域の役割がただに經濟的役割にとどまるものではなく、軍事的、政治的、文化的、等の各部面の役割を擔ふものであることは先に述べた培養領域の意義より明瞭であるが、ここには單に經濟的役割にのみ問題を限らねばならない。而して、南方の經濟的役割は、少くとも現在のところでは、從來それらの地方が培ひ來つた經濟的能力の範圍に限らるべきことは當然であるが、而もその經濟的能力は米英蘭等の植民地として培はれたものであり、これら本國の利益の下に支配制約され來つたもので全く植民地的性格をもつてゐる。したがつて、その現有能力が十分に發揮されざるものがあると共に、潜在的能力については全く顧みられぬものがある。今後これらの經濟的能力については、大東亞建設の方向において調査研究され大いに開拓さるべきではあるが、いま直ちにこれを實現することは困難であり、また必ずしも至當の策ではない。寧ろ今日の大東亞戰下の段階に應ずるその經濟的役割を十分に演ぜしむることが最も重要である。したがつて、南方が日滿支一體經濟の培養領域の一地區としてもつところの役割をその現在の經濟的能力において十分に果し得るやうに日本が確乎たる計畫の下に指導してゆかな

ければならない。その意味において、今日の問題は、寧ろ南方の經濟力いかんに在るのではなく、日本の計畫および指導力いかんに在るといつてもいいであらう。この點についてその衝に當るものは、日本の運命を擔つてゐる重大責任を感じて事に當つて欲しいと思ふ。

既に述べたやうに、南方諸地方は植民地的性格における原料供給地としてその經濟的能力を示して來た。したがつて今日においては大東亞戰爭遂行の立場からこの經濟的能力を發揮せしむることが當面の問題であるが、然らば、いかなる原料をいかに供給せしむるか。これは當然にその地方の經濟的能力と日滿支一體經濟の培養領域としてのその地位において定められなければならない。從來、いはゆる資源の開發において「重點主義」が强調されて來たが、謂ふ所の重點は必ずしも明らかではない。しかし、少くとも重點といふ限り、重點の根本基準は右のごとき意味において定められるべきものであらう。

南方よりの原料供給についても、單にあるものを出させ、出來るものを供給せしむるといふのではなく、現有能力の存する資源について、現に日滿支一體經濟內において、（一）調達し得ないものか或は調達し得ても需要量に比し極めて僅少なる生產よりなき原料、（二）供給量の不足する原料、（三）日滿支で賄ひ得るが培養領域に期待する方が少くとも今日の狀態においては經濟的に或はその他の理由から利益乃至は便利とする原料、等の順位において先づ軍需原料を考ふべきである。而してこれとは別系列において、現地住民の生活確保のために缺くべからざる原料生產も考慮しなければならぬ。これは主として現地住民の生活資料の生產であるが、また一方には、現地住民の生產を賄つてゐる主たる原始產業は、右の軍需原料の生產確保のいかんに拘らずこれを必要の程

度に保持しなければならない。なほ他の系列は、東亞共榮圏内における國民生活上必要とする原料の確保と共榮圏内における圓滑なる配給の問題である。殊に國民食糧の確保は、戰爭遂行上、治安の維持、民心の安定のために極めて重大な問題である。

以上の三系列によつて原料供給の問題を考へねばならぬが、少くとも戰爭遂行上問題にすべき原料は曾て私が擧げたやうに大別して六十一種類が數へられるであらう。[1] 而して、これらの原料中、日滿支一體經濟が特にその培養領域に期待するものは右の三系列の要求を滿足するものであるが、結局それは、

（一） 日滿支一體經濟內に無いか或は不足する原料

（二） 培養領域に固有にして而も饒產する原料、卽ち特產原料

に歸する。

然らば、いまこれを培養領域「南方」に求めるとすれば、果していかなる原料が問題になつて來るであらうか。もつとも滿洲國或は支那における資源の開發利用がどこまで進んでゐるか、また近い將來においていかなる程度まで自給力を高めるかによつて自ら異つてくるが、いま一應これを考慮外におくならば、日滿支一體經濟が南方に期待し、また期待せざるを得ない原料は、その主なるものとして次の二十種を擧げることが出來るであらう。卽ち、（一）石油、（二）石炭、（三）鐵鑛石、（四）マンガン、（五）ニツケル、（六）ボーキサイト、（七）鉛、（八）亞鉛、（九）錫、（十）銅、（十一）工業鹽、（十二）護謨、（十三）木材、（十四）規那皮、（十五）麻、（十六）棉花、（十七）羊毛、（十八）米、（十九）麥、（二十）砂糖、がこれである。このことは、前揭「東亞資源論」に述べたとこ

1） 前揭論文「東亞資源論」

ろにより一應明らかになし得てゐると思ふが、いはゆる南方開發による原料獲得の重點はまさにここに置かるべきであらう。もつとも、先に述べたやうに、南方に饒産し或は南方にこれを求めることがより經濟的であるやうな原料については、その生産が日滿支一體經濟よりこれが培養領域たる南方に移行することは必然で、南方に資源を求めて新なる資源開發が行はれるであらう。しかし、この場合に注意すべきことは、これらの開發が、(一)時局の推移と段階に相應して行はるべきであり、また(二)右に掲げた南方に期待する原料獲得のための資源開發を第一義に置くとともに、(三)單に經濟的要因ばかりでなく、日本が指導的地位に立ち日滿支を中核とし、その培養領域をもつて構成する東亞防衛體制の要請を十分に滿足すべきことである。徒らに、資源がありまた經濟的利益があるからといつて、計畫のない無方針な、いはゆる經濟發展は嚴に愼まなければならない。この意味において、東亞防衛體制を直接的な目標として、日滿支を中核としその培養領域を含むところの東亞廣域について確乎たる計畫を樹立し、この東亞廣域計畫によつて各地方各地域のもつ能力を十分に發揮せしめその役割を演ぜしむることが緊要である。したがつて、南方資源についても、その能力役割を研究することが重要であり、これこそ今日における南方資源論の課題でなければならぬ。

三

日滿支一體經濟の培養領域としての「南方」の區域は、先に述べたやうに培養領域の第二區および第三區であるが、これを地理的に見れば、(一)印度支那(一、九九九千平方粁)、(二)インドネシア(二、四一〇千平方粁)、(三)オーストラリア(八、一七三千平方粁)および(四)オセアニア(一、二四七千平方粁)の廣大な地域で、その總面積は

約一千三百五十九萬五千平方粁、日本內地（三八二千平方粁）の三五・六倍を越え、なほ日滿支を合せても（日本六八〇、滿洲國一、三〇三、支那四、六二八、計五、六一一千平方粁）その二・五倍以上の廣さである。この廣大な地域における人口は寧ろ甚だ少く一億六千萬人を出でないものである。大體次表によつてこれを概觀することが出來るであらう。

第一表　南方の面積と人口[1]

地域	面積（千平方粁）	人口（千人）
(一)印度支那	一、九九九	五九、六四四
佛印	七四〇	二三、五〇〇
泰	五一八	一四、九〇〇
ビルマ	六〇五	一五、九五八
馬來	一三六	五、二八六
(二)インドネシア	二、四一〇	八六、〇七〇
フイリツピン	二九六	一六、二五〇
蘭印	一、九〇四	六八、四〇〇
北ボルネオ	七六	三〇二
ブルネイ	六	三八
サラワク	一〇九	六〇〇
チモール（葡領）	一九	四八〇
(三)オーストラリア	七、九三九	六、九三〇
(四)オセアニア	一、二四七	三、四四三
ニュージーランド	二六九	一、六一八
ニューギニア	八六九	*九五〇
ニューカレドニア	一九	五五
ニューヘブライヅ諸島	一三	五〇
ハワイ諸島	一七	四一三
英領諸島	五〇	三七三
英委任統治領	三	六二
佛領諸島	四	四五
米領諸島	一	三五
日本委任統治領	二	一二二

1) Statistical Year-Book of the League of Nations 1939—40 および Knaurs Welt-Atlas による。人口は1938年12月31日推計人口。
* 濠洲委任統治領およびパプアのみの人口。

これによつても明らかなやうに、面積からすれば、オーストラリアが南方領域の總面積の六割近くまでを占め

印度支那とインドネシアで三割、オセアニアが一割といふやうな割合になつてゐる。即ち、

南方領域	一〇〇・〇	オーストラリア	五八・四
印度支那	一四・七	オセアニア	九・二
インドネシア	一七・七		

である。而してこれらの地方は何れも農林畜鑛産等專ら原始産業に依存し、工業は原始生産物の加工業程度以上には發達してゐない。また同じく原始産業たる水産業はこれらの地方の地理的地位が半島或は島嶼であるにも拘らず、土着住民の沿岸小規模漁業以上に出でず、寧ろ水産物を輸入してゐる狀態に在る地方さへ見られる。農業においてもなほ土地利用程度は低く、次表に見るごとく、フイリツピンのごときは可耕面積が全面積の五五%にもおよぶにも拘らず耕地面積は僅に全面積の一二・五%に過ぎず、またオーストラリアは可耕面積が全面積の一六・八%であるに對し、耕地面積は僅に一・三%程度にしかおよばないといふ狀態で、これを日本內地などに較べれば、土地はまるで使はれてゐないといつても過言ではないであらう。もちろん、この中には蘭印殊にジャヴアおよびマヅラのごとく、耕作面積が全面積の六三・一%にもおよぶ特別な地方のあることも注意しなければならぬ。しかし、これは太平洋水域における例外的な存在である。

第二表　南方に於ける土地の利用程度[1)]

	耕地面積	牧草地	森林	荒蕪地	可耕地	耕地面積一平方粁人口
佛印	七四(千平方粁)(一〇・〇九)	—	四二四(千平方粁)(五七・五)	—	—	二八四人
泰	三三(千平方粁)(六・三七)	—	三一一(千平方粁)(六〇・〇)	—	—	三四八

1) F. V. Field, Economic Handbook of the Pacific Area, New York, 1934, pp. 54—56 に據る。

馬來	一九(一三・四)	—	—	—	—	二三五
ジャヴァ、マヅラ	八二(六一・七)	—	三〇(二三・〇)	—	—	四九九
フイリツピン	三七(二二・五)	—	一八八(六三・五)	—	一六三(五五・〇)	三一三
オーストラリア	一〇二(一・三一)	二五九〇(三三・六)	七九(一・〇三)	三八二〇(四九・五)	一二九五(一六・八)	六四
日本内地	五九(一五・五)	七(一・九)	一九九(五二・〇)	三一(八・二)	七六(二〇・〇)	一、一一一

(括弧の中は全面積に對する%)

かかる耕地面積をもつて作られてゐる作物には各地方何れも特色があり、佛印および泰においては七割五分乃至九割六分までが米作地であり、フイリツピンおよびジャヴァにおいても米作地が全耕地の四割内外を占めてゐるが、オーストラリアは耕地の七割二分以上を小麥の栽培に當て、ニュージーランドは一割三分が小麥、牧草および燕菁の栽培に各二割六分近くを使つてゐる。また馬來においては、六割七分までが護謨の栽培に當てられてゐるやうに何れも異つてゐる。次表のごとくである。

第三表　作物別耕地面積割合[1]

(全耕地面積に對する%)

	佛印(一九三一)	泰(一九三〇)	馬來(一九二〇—三一)	ジャヴァ、マヅラ(一九三一)	フイリツピン(一九三二)	オーストラリア(一九二〇—三一)	ニュージーランド(一九二〇—三一)
小麥	—	—	—	—	—	七二・二	一三・〇
大麥	—	—	—	—	—	一・五	一・六
燕麥	—	—	—	—	—	四・三	一九・〇
乾草	—	—	—	—	—	一三・二	二五・八
クローヴァ							
砂糖栽培	〇・七	〇・二	—	二・四	六・七	一・二	—
馬鈴薯	—	—	—	—	—	〇・六	一・五

1) 前掲 Economic Handbook of the Pacific Area, p.58 に據る。

米	七五・二	九六・三	一五・四	四二・〇	四七・四	—
玉蜀黍	二・七	〇・二	—	二三・〇	一五・三	—
豆	—	〇・二	—	二・三	—	〇・六
椰子	〇・五	一・三	一三・〇	—	一五・〇	—
護謨	一・七	一・三	六六・八	三・六	—	—
			(カッサバ)*八・三	(アバカ)**一二・四		(葉菁)二五・六
計	八〇・八	九九・五	九五・二	八一・六	九六・八	九三・〇

八七・一

このやうに米を作るところは米ばかり作り、麥を作るところは麥ばかり作つてゐるし、各地方が國民食糧の相當程度の自給が出來るやうに農産物の作付が行はれてゐない。甚だしいのは馬來がその特産物の護謨の栽培に全耕地の七割近くを使ひ食糧農産物の多くを輸入に俟つてゐるがごときである。この狀態はフイリツピンもまた同じで、砂糖以外の前掲の農産物は全てこれを輸入に仰いでゐる。佛印、泰、ビルマ等は米の産地でこれが輸出地方であるが、小麥、馬鈴薯、砂糖、蔬菜類、等は輸入によらねばならぬ。殊にオセアニアにおける小島嶼の多くは食糧の大部分を他地方に依存しなければならないであらう。この中に在つて、オーストラリアおよびニュージーランドの農産および畜産は、大なる力をもつて東亞を賄ふことが出來るであらう。右の表でも知られるごとく、オーストラリアは南方培養領域で支配的な小麥の産地であるばかりでなく、農畜産物の殆ど全部の輸出地方であり、米作のごときはそれが市場目當に行はれるに至つたのは一九二四—二五年からであるが、既に一九三〇—三一年からはいままでの輸入が輸出に轉換し、その年に八萬三千ブッシェル、卽ち約一萬七千石を他國に出してゐる。ニユージーランドも小麥と砂糖とを輸入してゐる以外、大體その狀態はオーストラリアに同じである。

* Cassava, また Mandioc とも呼ぶ，食用。
** Abaca, Palm の土名，マニラ麻をとる。

南方における生産高は第四表によつて知られたいが、ここに問題になるのは（一）これらの農林畜産物によつて南方が日滿支一體經濟の培養領域たる役割をはたし得るかといふ點と、（二）南方培養領域自體の中において食糧需給をいかに圓滑に賄ひ得るかといふ點である。この點を明らかにするために各地域別に見ると次のごとくである。

(1) 佛　印

佛印の輸出品總額（一九三三—三七年平均）十五億三千五百二十萬フランであるが、その中農林畜産物の占める割合は八〇%で、米、玉蜀黍、護謨の輸出額をもつて既に七四・九%までを占めてゐる。次表のごとくである。

佛印の主要農林畜産物の輸出[1]（一九三三—三七年平均）

	數量（千瓩）	價額（百萬フラン）	總額に對する割合（%）
米	一五八二・一	六九七・三	四五・四
玉蜀黍	四四八・三	二五三・八	一六・五
胡椒	三・六	一三・八	〇・九
採油用果實及種子	一三・〇	一二・三	〇・八
コプラ	九・三	九・三	〇・六
茶	一・三	九・〇	〇・六
護謨	三〇・八	一九九・四	一三・〇
チーク材	一二・四	一〇・三	〇・七
漆	一・五	九・九	〇・六
生皮	二・九	一四・一	〇・九
計		一二二九・二	八〇・〇

1) Tableau du Commerce Extérieur de l'Indochine, Année 1938 に據る。

これらの輸出がいかなる方面に仕向けられてゐるかを見るに（一九三六年について輸出數量による）、佛蘭西の植民地としてその本國の占める地位は大きいが、大體次表によつてこれを窺ふことが出來るであらう。

佛印の主要農林畜産物の仕向地割合[1]（數量%）

	米（一、七八一千瓲）	護謨（四一、三一四千瓲）	漆（一、九三三千瓲）	チーク材（一一、五四八千瓲）	生皮（三、六三二千瓲）
日本	〇・二	一二・七	七四・八	—	—
滿洲支那	三・一	二・六	—	（三・七）	—
香港	一三・三	〇・三	二四・〇	八・〇	三一・九
シンガポール	一・八	七・一	—	六・五	—
蘭印	一・一	—	—	—	—
フイリツピン	三・三	—	—	—	—
英領印度、セイロン（ビルマを含む）	五・六	—	—	三四・〇	—
佛植民地	九・四	—	—	—	—
佛本國	五五・八	二九・三	—	一五・七	二〇・九
英吉利	二・〇	〇・二	—	—	三一・三
北米合衆國	—	四〇・七	—	—	—

農林畜産物中、玉蜀黍（輸出總額四七一千瓲）はその九八・九%が佛蘭西本國に送られ、またコプラ（一〇・六八一千瓲）は殆ど百パーセント近く本國向けである。しかし輸送路のつくまでは、從來の歐洲向のものは一應東亞共榮圏を潤すこととなり、また敵米英を潤してゐたものは完全に抑えて東亞共榮圏を賄ふこととならう。米、護謨、

1）Annuaire Statistique de l'Indochine 1936—37, Hanoi 1938 に據る。

玉蜀黍、漆、チーク材、生皮によつて佛印の寄與するところは大であるといはねばならぬ。しかし佛印は一方において農畜産物の或程度のものはこれを輸入に仰がねばならない。佛印の總輸入額は十億五千二百七十萬フラン（一九三三—三七年平均）であるが、その七・九%は小麥粉、生・乾・鹽野菜、果實、檳榔子、煙草、ミルク等をもつて占められてゐる。而して小麥粉は香港から、檳榔子、生野菜、ミルク、バター等は專らシンガポールを經由して、煙草はフイリツピンから主として輸入されてゐる狀態である。これらの生活必需品を共榮圈內において圓滑に賄ふために、共榮圈のいかなる地方を供給地とし、またいかなる地方を仲繼地として集散を司らしめるか等が問題となるであらう。これは佛印ばかりでなく、各地方について研究さるべき問題である。

佛印の主要農畜產物輸入[1]

	數量（千瓲）	價額（百萬フラン）	總輸入額に對する割合（%）
小麥粉	一七・三	一四・五	一・四
野菜	一七・一	一二・五	一・二
食卓用果實	七・七	九・九	〇・九
檳榔子	二・三	九・四	〇・九
煙草	一・七	一七・四	一・七
ミルク	三・六	一八・五	一・八
計		八二・二	七・九

(2) 泰國

泰國における主要農林畜產物の輸出は全輸出總額一億七千六百七十六萬一千バート（一九三八—三九年）の約七

1) 資料，前掲 Tableau du Commerce Extérieur。

六・一%を占めてゐる。これに錫および錫鑛の一七・四、鹽魚の一・三、鹽の〇・四を加へれば全體の九五%を越える。したがつて輸出を支配するものは農林畜産物であるが、その大宗は米で五五・一%、次は護謨の一四・二%、第三位は木材の四・三%である。

泰國の主要農林畜産物の輸出[1]（一九三八—三九年）

	價額（千バート）	總輸出額に對する割合（%）
米	九七、四一九	五五・一
生果	三〇〇	〇・二
乾檳榔子	六二五	〇・四
コプラ	二六	—
煙草	二五七	〇・二
チーク材	六、六九四	四・三
其他木材	八三二	

	價額（千バート）	總輸出額に對する割合（%）
護謨	二五、一二八	一四・二
ステイック・ラック	五九九	〇・三
家畜・家禽	一、二七〇	〇・七
皮革	一、二六四	〇・七
計	一三四、四一四	七六・一
輸出總額	一七六、七六一	一〇〇・〇

而して米の輸出先について見るに、日滿支および南方培養領域内に送られるものは（一九三八年—三九年）一八、〇〇四、四八二ピクル、その金額六六、六一二、五八四バートで、數量において米の全輸出量の六九・五%、金額において六八・三%を占めてゐる。即ち次のごとくである。

	數量（ピクル）（輸出總量に對する割合）	價額（バート）
日本内地	四二五、一四三（一・六）	一、四六二、二二九
臺灣	一六五	三七〇
滿洲國	二五〇、八七七（一・〇）	一、〇六五、八三八

1) Annual Statement of the Foreign Trade and Navigation of the Kingdom of the Thailand 1938—39 に據る。

支那	三六、一二二（〇・一）	一一一、八〇三	
香港	四、八九九、九一九（一八・九）	一七、六一七、一七二	
ビルマ	一〇	二四	
馬來	五九六、一〇五（二・三）	二、三一四、〇六七	
シンガポール	一一、二一二、五六七（三九・四）	四一、八八六、五七〇	
ペナン	一九七、二五一（〇・八）	六二五、二〇六	
フィリッピン	二〇二、四四五（〇・八）	八三七、六九四	
蘭印	四三、四〇〇（〇・二）	一八六、二四二	
英領北ボルネオ	一二八、五五八（〇・五）	四五六、〇八九	
オーストラリア	三、九三八	一八、五〇〇	
ニュージーランド	七、九八二	三六、七八〇	

これによつて見ると、泰の米は香港およびシンガポールに輸出されるものが全體の五八・三%を占めてゐる。佛印の米がその本國に送られるものを除けば香港に輸出されるものが最も比重が高いのと比せらるべきである。即ち、泰、佛印の米については、香港、シンガポールが仲繼的役割を演じ、ここより再び支那内地に或は東亞諸地方または歐洲阿弗利加に送られた事實を語るもので、而もこれが支配は專ら華僑の手に握られてゐたものである。日滿支および南方培養領域外即ちいはゆる東亞共榮圏外に輸出される數量は七、九〇九、四九九ピクルで、全輸出量二五、九一三、九八一ピクルの三〇・五%を占めてゐるが、セイロン、獨逸、和蘭、西印度等が何れも百萬ピクルを越え、この量が共榮圏外輸出の半以上を占めてゐる。而してこれらの共榮圏外への輸出は今後圏内を潤す大なる力として示されるであらう。

護謨については、輸出總量四七、三〇八、七九八瓲の中、東亞共榮圈内における輸出は四六、三七二、〇四六瓲で九八%を占めてゐるが、その仕向地は專らペナンおよびシンガポールで、總輸出量の九七・九%といふ比重を示してゐるが、ここから歐米に輸出されるものである。

輸出仕向地	數量（瓲）	價額（ポート）
日本	二七、六五八	一七、三一三
香港	一、〇八〇	五四〇
ペナン	二七、八三一、五四五	一五、二四一、〇八六
シンガポール	一八、五一一、七六三	九、二三〇、一四三
獨逸	九二一、五一二	六〇〇、六六三
米國	一五、二四〇	一一、三二八
合計	四七、三〇八、七九八	二五、一〇一、〇七三

チーク材は輸出總量五八、三〇六瓲中、東亞共榮圈内の輸出二三、六二八瓲で總輸出量の四〇・五%である。仕向地としては、香港（九、六四九瓲）、シンガポール（七、八九五瓲）、日本（三、一四三瓲）が主なるものである。また泰は棉花を輸出してゐるが、その數量は七、一六三ピクル、金額にして一六〇、九五七バートである。輸出先は獨逸（七四・二%）および日本（二五・〇%）である。

これらの農林畜産物の輸出に對し、泰國はまた小麥粉、ミルク、砂糖、野菜等を輸入しなければならない。小麥粉は輸入數量一六、三七七瓲、金額にして一、五六七、八六八バートであるが輸入數量の七五・一%までがオーストラリアによつて賄はれてゐる。また砂糖（精糖および糖蜜）の輸入量四〇・六三一瓲、その金額三、六四九、一六一

バートの中、九九・九%まで共榮圏内で賄はれ、その主なる仕出地は蘭印（七一・六%—數量で）、香港（一二・四%）である。なほ泰の輸入するものに野菜がある。野菜の輸入量一六、四八三瓲、二、〇六八、三九二バートであるが、その七二・六%まで支那および香港から、その他をシンガポール、ペナン、蘭印、馬來より輸入し、日本は僅に四瓲、五千二百七十五バートを送るに過ぎない。これらは、何れも東亞共榮圏内で賄はれるが、ただミルクは和蘭、スイス、英吉利、米國その他歐洲より輸入するものが多く、輸入量一一、〇〇五瓲（三、六三一千バート）中これらの占める割合が九〇・二%を占めてゐる。

(3) ビルマ

ビルマの輸出農産物の大宗は米で、輸出總量二、九二六千噸、二〇六、八六六千ルピーである（一九三八年）。輸出總額五八五、二二三千ルピーに對し三六・九%を占め、ビルマの輸出品中これに及ぶものはない。この他、糠の輸出の二・一%、他の穀類の一・三%、チーク材五・四%、棉花一・三%、護謨一・〇%等を合せれば農林産物が輸出の四八%の地位に在る。而してこれに對置さるべきものは三五%以上を占める鑛産物である。

ビルマの農産物の輸出仕向地について注意すべき點は、米が南方培養領域に輸出されるのは僅に海峽植民地に五・九%、蘭印に三・三%に過ぎず、他の九〇・八%は領域外の印度（四九・二%）、セイロン（一二・三%）、獨逸（五・八%）に出されてゐたことである。英吉利の植民地としての姿を現してゐるものに他ならないが、ここに佛印および泰とは異なる米の流動のルートを示してゐることが知られる。その他、棉花が輸出總量一六、六六六噸の五五・七%が日本に仕向けられてゐる以外、全て海峽植民地および印度が中心的な役割を演じてゐる。これに對し

輸入の主なるものは小麥で、輸入額三、八〇五千ルピー中、印度が九三・九%を占め、オーストラリアからの輸入は五・七%に過ぎない。その他ミルクの五、四四九千ルピーは和蘭および英吉利に完全に依存し、日本からの輸出は一・三%を占めてゐる程度である。

(4) 馬　來

馬來の農林產物の輸出の首位に在り而も錫とともに馬來の輸出貿易を支配してゐるのは護謨である。護謨は總輸出額五七一、二二〇千（海峽）弗の四七・八%、卽ち二七二、九八〇千弗（一九三八年）で、その他は植物油、果實、胡椒、等で米も一三、三八九千弗を輸出してゐるが、同時に五三、八二二千弗を輸入してゐるから四〇、四三三千弗を輸入してゐる譯である。その輸入總額五五一、〇二六千弗に占める位置は九・八%であるが、なほ小麥粉の〇・九%、砂糖の一・八%、煙草の三・〇%、ミルクの一・六%等は何れもその輸入總額に占める地位である。

馬來の輸出品の大宗護謨は大體五割以上が北米合衆國に、他の三割內外が歐洲大陸および英帝國に送られ、日本はその七分前後を輸入してゐるに過ぎない。一九三六年の統計によると次のごとくである。[1)]

仕向國	數量（噸）	價額（千弗）
日本	三九、一〇七（七・五二）	二三、九六七（七・九〇）
北米合衆國	三二八、一二三（六三・〇八）	一九〇、一七一（六二・七〇）
歐洲大陸	六八、〇六六（一三・〇九）	三九、八六七（一三・一四）
英吉利	四四、六二五（八・五八）	二五、六五六（八・四六）
英帝國諸國	三二、三九六（六・二三）	一八、八六七（六・二二）

1) The Foreign Trade of Malaya for the Year 1936.

其他	七、八二五（一・五〇）	四、七八五（一・五七）
合計	五二〇、一四二（一〇〇・〇）	三〇三、三一五（一〇〇・〇）

(5) フイリッピン

フイリッピンの輸出において最大のものは砂糖で、全輸出額（一九三八年）二三一、五九一千ペソの四三・一九%の一〇〇、〇四四千ペソである。大體輸出の四割三分までが砂糖と見られる。その他マニラ麻（八・七七%）、ココナッツ油（九・三〇%）、コプラ（一〇・五八%）及びコプラ細片（二・三七%）、乾燥椰子實（三・三〇%）、煙草（三・八三%）、木材（三・〇一%）等が主たる農林産輸出品である。而してこれらの輸出品の七〇%乃至一〇〇%は共榮圏外に送られ、完全に米國の原料供給地たる役割をはたして來た。しかし、フイリッピンは食用農産物についてその多くを輸入に仰がねばならぬ。即ち全輸入總額二六五、二一五千ペソに對し、小麥粉（三・八七%）、米（〇・三八%）穀物および同製品（〇・五九%）、果實（一・三〇%）、野菜（一・五〇%）、ミルクおよび同製品（一・一四%）など大體八・七八%餘の比重を占める農産食糧品の輸入を必要とする。この中、小麥粉は九二、四七一瓲、一〇、二六三千ペソで、金額について見ると、日本から二%、オーストラリヤから二一%、米國およびカナダから七七%を輸入してゐる。また米は輸入數量九、三七九瓲、百萬ペソで、その九五%まで佛印および泰に仰いでゐる。したがつて米については問題はないが、小麥粉については今後オーストラリアに專ら依存しなければならないであらう。

(6) 蘭印

蘭印の農林畜産物中その首位を占めるものは護謨で、全輸出總額六八七百萬ギルダーに對し一五七・五百萬ギ

ルダー即ち二二・九三%を占めてゐる。その他主要なるものを擧げれば次のごとくである。[1)]

	價額（百萬ギルダー）	全輸出總額に對する割合（%）
護謨	一五七・五	二二・九三
油脂植物果實並種子植物性油脂	六五・八	九・五八
砂糖	四五・二	六・五八
茶	五六・二	八・一八
珈琲	一三・七	一・九九
タピオカ類	九・二	一・三四
藥品及胡椒	三〇・二	四・四〇
煙草	三八・八	五・六五
硬質纖維	一六・一	二・三四
其他植物製品	二九・二	四・二五
動物性物產及同製品	八・〇	一・一六
計	四六九・九	六八・四〇

即ち輸出總額の六八・四〇%は農林畜產物で、その他に石油および同製品の二三・二九%を加へれば全輸出の九二%までを占めることとなる。而してこれら農林畜產物の七〇%乃至九九%までは共榮圈外に輸出され來つたもので和蘭本國或は米國を主たる仕向地としてゐたが、蘭印が既に「東印度諸島」としてわが手に納められた今日においては、これらの原料品は全く東亞共榮圈內に供給されることとなるであらうし、この原料供給能力を活用しなければならぬ。ここに附言すべきは、蘭印において規那皮の輸出七萬瓲、規那と合せて輸出額千百八十五萬四千ギルダーの特產のあることである。先に、日滿支一體經濟が南方培養領域に期待する原料の一としてこれを擧げておいたが、現在のところでは日滿支の何處にも規那皮の供給を求めることは出來ないのである。從來、蘭印の規那および規那皮の輸出額の八割以上は和蘭および歐洲に出されてゐたが、今後これが東亞共榮圈における供給は完全に確保されるであらう。

1) Statistisch Zakboekjje voor Nederlandsch budië, 1939.

蘭印も米、小麥、ミルク、その他食用農産物を輸入せねばならぬ地方である事は右の輸出の狀態からでも推知されるであらう。米は輸入額二二・一百萬ギルダーで全輸入總額四七八・四百萬ギルダーの四・六%である。而してこれが仕出地はシンガポール(三九%)、泰(一一%)、ペナン(一〇%)、佛印(九%)等とともに印度(三二%)が重要な地位を占めてゐる。また小麥粉は輸入額七・七百萬ギルダー(輸入總額の一・六%)であるが、その九九%までオーストラリアの供給するところである。ミルクは輸入額五・三百萬ギルダー(輸入總額の一・一%)で和蘭が七二%、その他歐米諸國が二二%を供給し、九四%まで共榮圏外に仰いでゐる。

なほ北ボルネオについても農林畜産物の輸出入關係はほぼ同樣で、輸出總額九、五二六千弗(一九三八年)中、護謨が四九・七%を占め、木材が二二・八%、その他コプラ(四・七%)、カツチ(二・八%)、麻(二・七%)、煙草(四・八%)等が主なるものであるが、米、小麥粉、砂糖、ミルク等を輸入しなければならぬ。輸入總額六、二〇二千弗中、米は一八・四%、小麥粉は二%、砂糖三・三%、ミルク三・一%である。[1]

(7) オーストラリア

印度支那が米の倉ならオーストラリアは小麥の倉であり、また東亞共榮圏における豐かなる牧場である。その生産額については第四表に掲げる通りで繰返し述べる必要はない。一九三六—三七年の輸出貿易について見ると農林畜産物中その首位に在るものは羊毛で全輸出總額の三九・九%を占め、小麥の一一・九%がこれに次ぐ。大要は次頁表のごとくである。

オーストラリアは農林畜産物に關する限り、南方培養領域の他の地方のごとく特に輸入に俟たねばならぬとい

1) State of North Borneo, Annual Report of the Customs Department for 1938.

オーストラリアの主要農林畜産物の輸出[1]（一九三六—三七年）

	價額（千磅）	總輸出額に對する割合（%）		價額（千磅）	總輸出額に對する割合（%）
小麦	一八、七六〇	一一・九	バター	七、七一六	四・九
小麦粉	五、五九六	三・六	チーズ	三八四	〇・三
果實	五、〇五一	三・二	羊毛	六二、五二六	三九・九
砂糖	二、八八八	一・八	皮革	七、三〇五	四・六
木材	六〇七	〇・四	計	一二一、一五六	七七・二
獸肉	一〇、三二三	六・六	總輸出額	一五六、五八六	一〇〇・〇

ふやうなものはなく、十分な輸出能力をもつものである。而もその輸出仕向先は七〇%以上が東亞共榮圈外の歐米諸國で、今後オーストラリアが完全に日滿支一體經濟の培養領域たる役割をはたすならば、小麦および小麦粉など滿支ならびに培養領域の各地方の食糧としての要求を滿足し得るものと思はれる。羊毛についても從來培養領域外に輸出されてゐた約七二%のものが十分に需要を充たし得るであらう。一九三五—三六年の輸出貿易について、輸出價額における割合を示すと次のごとくである。

	輸出價額	日滿支及培養領域	培養領域外
小麦	一四、〇五〇千磅	一九・三%	八〇・七%
小麦粉	四、五一九	二九・三	七〇・七
果實	四、〇一三	一〇・九	八九・一
砂糖	二、一七五		一〇〇・〇
木材	五一六	五四・五	四四・五

1) Official Year-Book of the Commonwealth of Australia 1937.

獸肉	八、七五二	二・〇	九八・〇
バター	九、〇二八	五・九	九四・一
羊毛	五二、三三九	二八・〇	七二・〇
皮革	五、六四九	二・二	九七・八

更にこれに加へて、ニュージーランドの供給力が培養領域内に十分に發揮されるなら東亞共榮圏における食糧自給は一層安固なものとなるであらう。先にも見たやうに、ニュージーランドは小麥と砂糖以外には主要農產物畜產物について大なる輸出力をもつてゐる。一九三九年の輸出總額五八、〇四九千磅の中、九一・二%までをバター、チーズおよび卵、獸鳥肉、羊毛、皮革毛皮、果實および動植物性油脂で占めてゐる。而もその何れも九〇%以上が從來培養領域としては何等役割を果してゐなかつたものである。[1] なほオセアニアの島嶼を各個に見るならば、それらの資源の現有能力を明らかになし得るであらうし、またニューギニアのごときなほ未開拓の殘された而も廣大な地域が資源的に潛在能力をもつかも問題とされなければならぬ。

しかし、以上に見た範圍でも、南方培養領域が日滿支一體經濟に對する役割において演じ得るその能力は相當大なるものがあると思はれる。農林畜產物の最も主要なるものについて、これを要約すれば次のごとくいひ得るであらう。

（一） 米は佛印、泰、ビルマの輸出總量が大體六、三〇八千瓲となるが、少くともその二割は今後日滿支に供給增加し得るものと見られる。この數量が約百二十六萬瓲である。もちろんこれは貿易から見た最小限度で、東亞共榮圏內における配給の如何により、さらにまた生產の增加により、共榮圏內の自給は十分に達し得られる。

（二） 小麥および小麥粉は共榮圏內の各地方とも輸入に俟つところが大であるが、オーストラリアがその輸出

1） 資料 New Zealand Official Year-Book 1941.

價額において七割乃至八割を從來共榮圈外に出してゐるので、これを以て十分に補給し得る。

（三）砂糖はフイリツピンおよび蘭印が從來その輸出量の七割以上を共榮圈外に出してゐたのであるから、先づこれを以て賄ふことが出來る。

（四）護謨は世界における主産地をこの南方培養領域内に含むのであるから自給して餘りがある。從來は米英が佛印の輸出量の四割一分を、同じく泰の九割八分を、馬來の七割八分を占めてゐたのであるが、彼等は今後この供給を完全に閉ざされなければならぬ。

（五）その他、チーク材、漆、植物性油脂、等の供給については十分にその餘力を示し得ると同時に米英に對し大なる封鎖的役割を演じ得る。

（六）棉花についてはビルマ、麻についてはフイリツピン、羊毛についてはオーストラリアがその能力の全部を培養領域としての役割に向け得るから、麻、羊毛に關する限り自給は十分可能となり、棉花は一の補給源とならう。

（七）畜産物については專らオーストラリアに期待しなければならないが、從來の九割近い歐米への輸出は全部共榮圈内に向けられる。

しかし、ここでは專ら培養領域の各地方について地表の資源の現有能力がいかに利用されてゐるかを最も表面に現れた姿において見たに過ぎない。これが大東亞建設のためにいかに活用され、またそれらの能力がいかに補完さるべきかといふやうな問題はこれを土臺にして考へらるべきことである。更に地下資源がいかなる程度に原料供給力を示してゐるか、また海洋資源はいかに利用されてゐるか、等先づその示されたる事實を見なければならぬ。（未完）

第四表　南方培養領域における原料生産（一九三六年）

品目	単位	佛印	泰	ビルマ	馬来	フィリピン	蘭印ボルネオ	蘭印	濠洲	新西蘭	ニューカレドニア	南方培養領域合計	日本（外地ヲ含ム）	濠洲	支那	日濠支合計	総計
鉄鑛及鐵	千瓩	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鋼（屑）フェロアロイ	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ニッケル鑛	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
クローム鑛	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
タングステン鑛	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
モリブデン鑛	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
カドミウム	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ボーキサイト	千瓩	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
アルミニウム	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
アンチモニー鑛	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
水銀	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
錫	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鉛	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
亞鉛	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
銅	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
金	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
銀	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
石炭	千瓩	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
亞炭	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
原油	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
瓦斯	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
石油	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩燐石	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
南燐鹽	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
マグネサイト	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
過燐酸石灰	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
加里	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
硫黄	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
硫酸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
米（籾）	千キンタル	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大豆	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
小麦	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大麦	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
燕麦	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
玉蜀黍	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
馬鈴薯	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
甜菜	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
甘蔗	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
煙草	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿花	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
レーヨン	千キンタル	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
亞麻	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大麻	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
コプラ	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
椰子油	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実油	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
落花生	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
胡麻	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿花	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
牛肉	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
羊肉	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
豚肉	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
羊毛	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
化学パルプ	千瓩	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
砕木パルプ	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実油	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
椰子油	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
生糸	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿屑	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿実	〃	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

Statistical Year-Book of the League of Nations 1937–38 & 1939–40 に據る

(1) 輸出量は年初及び年末倉庫量の差を加へたるもの
(2) 一部の地域に就いてはその移出量を計上
(3) 若干の源泉を含む　(4) 濠洲を含む
(5) 太洋洲及びフィリッピンの合計　(6) 支那を參照

備考

1. 佛印は廣州灣を、濠洲、新西蘭、日本は夫々委任統治領を含む
1. 品目中 *印を附したるものは當該金屬の含有量を示す。またクローム鑛は Cr_2O_3 含有量、タングステン鑛は WO_3 含有量、加里は K_2O 含有量、它概括に含量を示す
1. 表中「…」は不詳、「—」は果實に非當數字無し。但しビルマに就いては印度に、濠洲に就いては註記せるものの外南支那に、含まれたるものあるも不明
1. 總計に當りては年度の定め方を異にするものなも便宜合計せたり